

長浜市森林ディレクション審議会（平成30年度第1回）議事録

【出席者】委員10名（敬称略）

会長 滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授：高田 豊文

副会長 鳥居木材株式会社：鳥居 憲治

滋賀北部森林組合：膽吹 憲男

滋賀県猟友会長浜支部支部長：内海 来

林友会、自然再生士：吉井 悟

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会：橋本 勘

元中学校長：村上 宣雄

公募市民：吉川 誠

公募市民：東 逸平

湖北森林整備事務所：福田 公二

市（事務局）5名

森林整備課：大澤管理監、永井課長、横田課長代理、辻副参事、寺村主査

【開催日等】平成30年6月6日（水）午後1時30分～

場所：長浜市役所3階3-Bコミュニティールーム

【議事項目】

- (1) 長浜市森林ディレクション審議会及び長浜市森づくり計画アクションプランについて
- (2) 平成29年度事業実績報告について
- (3) 平成30年度事業計画について
- (4) 事業評価の検討について
- (5) その他

【議事録】

1. あいさつ

- ・藤井市長よりあいさつ。

2. 自己紹介

- ・各委員、事務局の自己紹介。

3. 審議事項

(1) 会長、副会長の選出について

- ・委員長として高田委員、副委員長として鳥居委員を事務局より提示し、承認。

(2) 長浜市森林ディレクション審議会及び長浜市森づくり計画アクションプランについて

- ・資料に基づき、事務局より説明。

(委員)

- ・事前に資料を配布してもらえないのか。

(会長)

- ・次回以降、資料を事前に配布されたい。

(委員)

- ・アクションプランに新規と記載のあるものについて、いつから行っている事業なのか。

(事務局)

- ・平成 27 年度にアクションプランを見直しており、その時点における新規の事業となる。この事業は審議会が出た意見を基に追加したものである。
- ・現在のアクションプランの期間が平成 31 年度までであり、来年度見直す必要がある。また森林法の改正によって長浜市森づくり計画の改定の必要があるかもしれない。見直し、改定の際は委員の皆様にご審議いただくことになるので、よろしく願います。

(3) 平成 29 年度事業実績報告について

- ・資料に基づき、事務局より説明。

(委員)

- ・事業が多いため、今後は重要な所だけピックアップして説明されたい。
- ・資料 2-3 に素材生産量を 2 万 m³にするとあるが、達成可能な根拠があるのか。また平成 29 年度は 1 万 m³とあるが、なぜ平成 28 年度より下がったのか。

(事務局)

- ・5 年前に滋賀県が設定された目標値が県内で 12 万 m³であり、長浜市の森林の面積が県内で 1/6 のため、そこから 2 万 m³とした。しかし、森林の割合としては、人工林が 4 割、天然林が 6 割と人工林の割合が少なく、素材生産量が上がりにくい点がある。

(委員)

- ・平成 29 年度の素材生産量が落ちた理由としては、平成 29 年度は雪が多く、現場に入れなかったため、搬出できなかった。
- ・森林の集約化が進まない中では 2 万 m³の目標を達成するのは到底できない。現状の作業で手一杯。

(委員)

- ・素材生産量のこともあるが、出した木材が売れるかである。使い道がないと生産しても仕方ない。

(事務局)

- ・搬出した木材の割合は、A材が 20%、B材が 30%、C材が半分以下となっている。

(委員)

- ・市役所の跡地の図書館に多く市産材を使うなど、市の建築工事と関連して目標とする 2 万 m³ならわかるが、そういった具体的内容もない中で 2 万 m³を設定するのはどうなのか。

(委員)

- ・森のエネルギー推進事業について、1 年間の件数か。日本全国では薪ストーブなどもっと増えている印象がある。

(事務局)

- ・平成 29 年度に 21 件あり、平成 31 年度までで 160 台を目指している。1 年あたり 300 万円の予算に対して、1 件 10 万円、年間 30 件としている。年によっては 30 件以上申請があった年もあった。

(委員)

- ・補助金の周知が不足していると思うため、もっと周知されたい。
- ・木質バイオマスボイラーはバーデあざいに既に設置したのか。現在稼働しているのか。

(事務局)

- ・昨年度設置し、4月末から本格稼働している。重油から薪にエネルギーを転換しようとしており、温度の上り方などを見て、効率的な運用を検討している。

(委員)

- ・資料4の21、市産材を活用した木材住宅の推進において、補助の上限はあるのか。

(事務局)

- ・15 m³で30万円を上限としている。

(委員)

- ・家1棟建てるのに20 m³くらい使用することになる。この補助金は、施主を対象としているため、工務店にとってはメリットがない。その上、書類の作成もしないといけなく、工務店にとっては煩雑である。

(委員)

- ・奈良県の十津川村では、林業の町ということもあって町産材を使うとかなりの金額が補助されると聞いたことがある。

(事務局)

- ・当初、この補助金を考える際に、工務店を対象にするか、施主を対象にするか検討した。施主に使ってもらうことに意味があると考えて、施主を対象にすることとなった。
- ・今後、対象を拡大するのか、またリフォームも対象にするのかなど、改正を検討する必要がある。

(委員)

- ・高齢化している状況があるため、若年層がやりたくなるような、儲かる森林経営が必要でないか。

(事務局)

- ・前回の審議会の委員の中でも森林に経済的なイニシアティブが働かないとビジネス化にはならないとの同様の意見はあった。

(委員)

- ・チップ材などは力興木材工業(株)に持ち込んでいるのか。他の県では、軽トラに木材を積んで、それを売ることによって晩酌にする取組みがあると聞いている。

(事務局)

- ・バーデあざいのバイオマスボイラーは年間300 m³を消費する計画であり、木材を納入しているあざいウッドステーションで木材の買取りをされている。個人で切った木の買取りもされているため、その辺りの周知を行っていく。
- ・生産者起点で付加価値をつける方法もあれば、大量のロットで稼ぐ方法もあるため、そういうことを踏まえて考えていけると良い。

(委員)

- ・市産材のブランド化はできないのか。

(委員)

- ・米原の伊吹の木材は東濃檜、杉野の木材は福井杉に質が似ている。しかし、実際に市場に出すと、そういったブランドの木材と比べると安く取引されている。

(委員)

- ・滋賀の木材は、見た目を気にしなければ強い木である。林業県でない中、後発でブランド化するのは難しい。木材の流れは川上から川下というように、川下で詰まってしまうと流れていかない。そのため、川下でしっかりと使われるよう考えていく必要がある。

(5) 平成 30 年度事業計画について

- ・資料に基づき、事務局より説明。

(委員)

- ・平成 29 年度と平成 30 年度の予算を比較した表はないのか。

(事務局)

- ・そうした資料はない。資料 3 の表に前年度と今年度の予算がわかるような資料を次回の会議に示す。
- ・木育事業が 3 か年で配布が終わるよう予算を増額した。またマッチングセンターで森の担い手となる人材を育成する取組を進めており事業拡充している。その他、林業の 6 次産業化にも力を入れている。

(6) 事業評価の検討について

- ・資料に基づき、事務局より説明。

(委員)

- ・ドイツのフォレスター招聘とあるが、大規模な林業機械で木材生産を行うやり方であり、日本の林業では参考にならないのでないか。

(事務局)

- ・ドイツは林分調査が進んでいる。そういった点も踏まえ参考になる点はあると考えている。

(10) その他

(事務局)

- ・日程調整をさせていただいた結果、次回開催日を 8 月 8 日 (水) 午後からとします。

4. 閉会